

## ま え が き

校長 小笠原幹朗

今年は、「学びあう子ども ～心ひらき、夢つむいで～」という学校教育目標をかかげて仕事に取り組んできました。研究主題は、昨年度から「豊かな学びを育む学習活動の工夫」としてしています。この一年、その取り組みの方向は、「学び合う学び」を子どもたちの間に、また、私たち教師の間により豊かに創り出すことにはっきり定まりました。

そのための最も重要な手だてとして、先生たちに年二回以上の授業の公開をしていただきました。他人に授業を開き、自らを批判にさらすことは、大変におっくうなことであるはずですが、しかしそれなしには、私たちは公教育の担い手たり得ないと考えます。果敢に授業公開に取り組んだ先生たちに感謝します。

そしてそのうちの三回は、元岳陽中学校校長佐藤雅彰先生をお迎えし、公開授業研究会として行うことができました。佐藤雅彰先生の指導助言はきわめて具体的であり、「学びの共同体」づくりを目指す最前線の研究者として最新の研究課題を示していただく内容となりました。（詳細は本校のホームページ上に掲載しています）

たとえば、国語の授業において、「本丸を攻めてはいけないんだよね、外堀から攻めるんだ」という佐藤学教授のことばや、「詩の心臓をつかまえると、詩は死んでしまう」という谷川俊太郎氏のことばを引用しながらのご指導などは、きわめて印象的でした。

あるいは、「課題を与えるとそこには必ず『差異』ができる。『差異』をうめるためにグループは使われる。わからない者がたずね、わかる者がそれに応答することによって、わからない者はジャンプすることができる。わかる者はより深い学びができる」という、「学び合う学び」についてのお話をお聞きすることができました。

何よりも授業研究は、教室で生じた事実に基づいて行わなければならないこと、それは、授業がいつもテキストの言葉や資料に帰り、それらを媒介として行われなければならないのと同様であることを繰り返し繰り返し教わりました。

また、公開研究会には、18校、のべ37人の他校の先生たちにお出でいただきました。そしてたくさんの貴重なご意見をいただきました。心から感謝いたします。

秋田市学校教育の基本方針は、「自立型の子どもの育成」です。そして、自立型の子どもを育てるためには、逆説的ではあるけれども、しっかりと他人に依存させることが大事であると考えます。わからない時に「教えて」と他人にたずねることができる子ども、他にたよることができる子どもこそ、自立に向かっているのだと考えます。

学校はそうした子どもたちの出会いの場所であり、学び合いの場所です。私たちは自立型の子どもの育成を目指して、たくさんの依存のし合い＝すなわち「学び合う学び」を創り出すことに、ますます力を注ぎましょう。

人は決して一人では生きられないことを、すべての始まりに二人があったことを、そのわかりやすく深遠な事実を勝利の杯をかわす時に思えば、さらなる挑戦に臨む勇気と感謝を、持ち続けられるかもしれない。

絹谷幸二 「学校の挑戦」装画解題より